

keyword

環境との融合

自然と建築が重層する透明感のある別荘

別荘建築における“贅”の基本は、建築と自然環境のあいだに、どれほど豊かな関係を築けるかに尽きるでしょう。建築家の岡田哲史さんは建築設計だけでなく、ランドスケープデザインまでトータルでディレクションし、環境と建築の理想的な融合を達成しました。

撮影 川辺明伸

FUSION
WITH
NATURE

なだらかに傾斜した敷地の形状を生かし、既存の樹木と新たな植樹の組み合わせにより、建築と環境が一体となった美しい景色を実現している。

ガラスに周囲の木々が映り込み、自然の豊かさが増幅するリビング



1階のリビングの家具はモルターニを中心にコーディネート。階段5段分の高い位置にダイニングとキッチンが続き、北側の庭まで視線が抜ける。

彫刻のような樹形のモミジをライトアップしてラグジュアリー感を演出

依頼主のTさんと岡田さんが山で見つけ植樹したモミジ越しに見たダイニングとキッチン。照明と端正な窓回りにより、内外の一体感が増す。

建築の構造から素材まで、デザインの要素を徹底的に吟味する



大人10人がゆったりと掛けられる
ダイニングの家具は、リビングと同じ
モルテーニで統一感を。変化する
庭を楽しみながら食事を楽しめる。

徹底的にミニマルに仕上げられた開口が自然の魅力を増幅させる

建築空間を構成する線を可能な限り減らし、端正で上質な空間をつくる――。岡田哲史さんは、まちがなくなるとその道を極めた建築家の一人。岡田さんがこれまで手掛けてきた建築は完成度が高く、国内外の富裕層からの設計依頼のみならず、海外の建築関連のメディアや大学からも評価が高い。周囲の自然に融合する建築の設計において建物は、そこで過ごす人に周囲の緑や水、光や風をより魅力的に感じさせる。上質な背景であることが求められる。端正で透明感のあるミニマルな建築は、別荘建築においてもその魅力を大いに発揮している。

「GUEST HOUSE P/k」の設計は、大企業のオーナーであるTさんが家族と余暇を過ごす別荘としてだけでなく、仕事関係のゲストをもてなし、社員の保養施設としても活用する目的で始まった。700坪以上ある敷地は軽井沢の中心地に近く、南側に小川が流れる恵まれた条件。Tさんが要望する「自然と渾

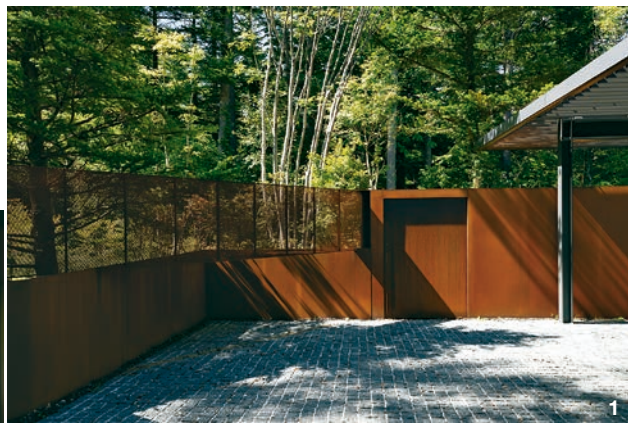
然一体の建物」の実現は、岡田さんにとっては容易であったが、最大の課題はプライバシーをいかに確保するかにあった。そこで岡田さんは、建築設計だけでなくランドスケープデザインにも積極的に関わった。造園業者さん協力のもと、既存の樹木の状態を丁寧に診断し、害虫や病気で傷んでいるものは伐採し、小川に面する南側に向けて建物を大きく開放するプランとした。なだらかに傾斜する土地の形状にはほとんど手を加えず、建物は一部に地階を造り2階建としたが、周囲の道路からは平屋に見える。近隣の別荘が立ち並ぶ北側には駐車スペースとエントランス。中央にLDK、東側にゲストルーム、西側にギャラリーやプライベイトスペースが配されている。「屋内外のどこにいても、建物の向こう側に広がる自然まで見通せるのは贅沢なことです。建物の痕跡だけを残り、その空間は自然の中に溶かしてしまいたかった」と岡田さん。リビング

には、どちらを向いても周囲の樹々

の中にいるような空気が漂っている。建築とランドスケープの両方を巧みに操る岡田さんは、独自のディテールで窓回りを美しくシンプルに見せる。ピクチャーウィンドーという窓枠で景色を絵のように切り取る手法もあるが、ここでは景色を眺めるのではなく、体感できる上質なインテリアの一部にまで昇華させている。

岡田さんが初めてこの土地を訪れてから、建築とランドスケープのデザインを経て竣工まで約3年。Tさんとは、図面の打ち合わせにとどまらず、理想的な植樹木を求め山の中を数日探し回ることもあったという。こうした依頼主と建築家のあいだで築かれた厚い信頼関係が、一緒に建てた建築をつくるという愉しみを膨らませ、美しい建築へと結実する。建築とランドスケープを一人の建築家が担い、依頼主と共に妥協せずこだわり抜く――。内外が理想的に一体となった贅の極みといえる別荘がここに誕生した。

- 1 敷地の外周に配された囲い壁は、建築の延長としてデザインされた。素材はコルテン銅で経年変化によって色が落ち着く。凹凸の開口やメッシュ素材を用い、採光や通風に配慮。近隣からの視線を調整したりイノシシの侵入対策、防犯の役目も。
- 2 アムスタイルによる、端正なオーダーキッチン。





上 パノラマの開口で庭とつながるダイニング。コンクリートの壁と植栽、コルテン鋼の建築物の組み合わせが美しいコントラストをつくる。シンボルツリーのモミジ越しに近隣の別荘の屋根が見えるがプライバシーは守られている。下 三面開口のリビング。フレームを極限まで細くすることで、植栽がインテリアの一部に。



上 竣工して半年以内だが、建築の美しさを主張しつつ周囲の自然と融合している。敷地内に水路と池をつくり水を循環。隣接する小川で釣った魚を人工の池で飼うことも視野に入れている。下 バスルーム。サッシが完全に引き込まれ内外がひと続きになり、露天風呂感覚を味わえる。岩組からの吐水は庭の水路と池へ流れる。



各部屋が照明によって浮き立ち、建築の圧倒的な存在感が強調される

南側から見た夕景。日中とは異なり
周囲の自然は闇に沈む。ホテルのラ
ウンジのようなリビングやゲストルー
ムのラグジュアリー感が強調される。



7



DATA

GUEST HOUSE P/k

- 設計 / 岡田哲史建築設計事務所
岡田哲史+寺田達哉+岡田理佐
SPECIAL THANKS TO 岩瀬英志
- 敷地面積 / 2515.9㎡
- 延床面積 / 608.85㎡
- 地下階 / 172.02㎡
- 1階 / 436.83㎡
- 所在地 / 長野県北佐久郡
- 用途地域 / 第一種低層住居専用地域
- 構造 / RC造+S造
- 構造設計 / ビーファーム
- 工事期間 / 2017年5月~2018年11月
- 施工 / 笹沢建設 佐藤 潤
- キッチン製作 / アムスタイル
- 造園デザイン / 箱根植木
- 照明デザイン / シリウスライティングオフィス
- オーディオデザイン / ブルーベル 浅野孝介
- 美術品展示 / 浅間縄文ミュージアム 堤 隆
乃村工藝社
- 管理会社 / ライフプラス

MATERIALS

- 外部仕上げ
 - 屋根 / ガルバリウム銅板
 - 外壁 / コンクリート打ち放し 短冊型枠
撥水剤塗布、石張り インベリアルブラウン
- 内部仕上げ
 - LDK
床 / フローリング(マルホン)
ボロン畳(アドヴァン)
壁 / 石張り インベリアルブラウン
左官仕上 雲母入り(西澤工業)
天井 / ホルバー天井 EP塗装
 - バスルーム
床 / 十和田石 モザイクタイル
(聖和セラミックス)
壁 / インベリアルブラウン
モザイクタイル(聖和セラミックス)
天井 / アルミパネル ヒノキ緑甲板張り
防腐塗料

INSTRUMENTS

- 厨房機器 /
オープン・IHコンロ・食洗器:ミール
水栓金具:KWC
レンジフード:テカ
浄水器:メイスイ
シンク:ステンレス 造作
- 衛生機器 /
バスタブ:十和田石 造作
水栓・シャワー水栓・洗面ボウル:セラ

3

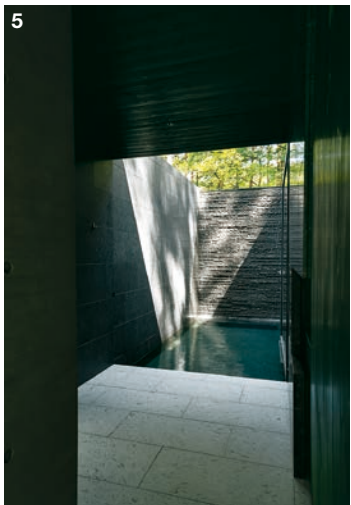


4



3 マスターベッドルーム。ヘッドボードを兼ねた家具を含め、インテリア全体をデザインした。照明はすべて調光できる。目覚めとともに大きな開口から庭の景色を楽しめる。**4** 緑のゲートをくぐるような感覚の玄関アプローチ。写真は中央の扉を開けた状態だが、通常は両サイドのスリット窓から庭へ視線が抜け、室内への期待感が高まる。**5** プライベートエリアに設けられた水壁。正面の壁に水が流れ、視覚と聴覚の両方で涼を楽しめる。手前の照明の照度を下げることで木漏れ日や木々へと意識が向かう。**6** Tさんがコレクションした陶芸作品を飾るギャラリースペース。突き当たりのトップライトが幻想的。**7** ホテルのような広々としたトイレ。カウンター背後に便器がある。

5



6



リラックスしながら景色を眺められるチェアはモルターニ製。シオ・ボンティがデザインした名作の復刻で、窓辺の美しい景色になっている。